AH Formatter 事例紹介セミナー

紙印刷からスマホ対応まで
ワンソースで作る取扱説明書

－自社開発システム「iTrex」の事例－

三和印刷工業株式会社

2014年7月8日

社名　三和印刷工業株式会社

資本金　2500万円

創業　昭和21年5月1日

設立　昭和38年4月20日

主な業務内容

- ドキュメント制作
（AV機器、デジタル製品の取扱説明書やサービスマニュアル制作）
- 多言語翻訳
- 各種印刷（オンデマンド印刷、オフセット印刷、ラベル印刷）

取扱説明書の課題/環境

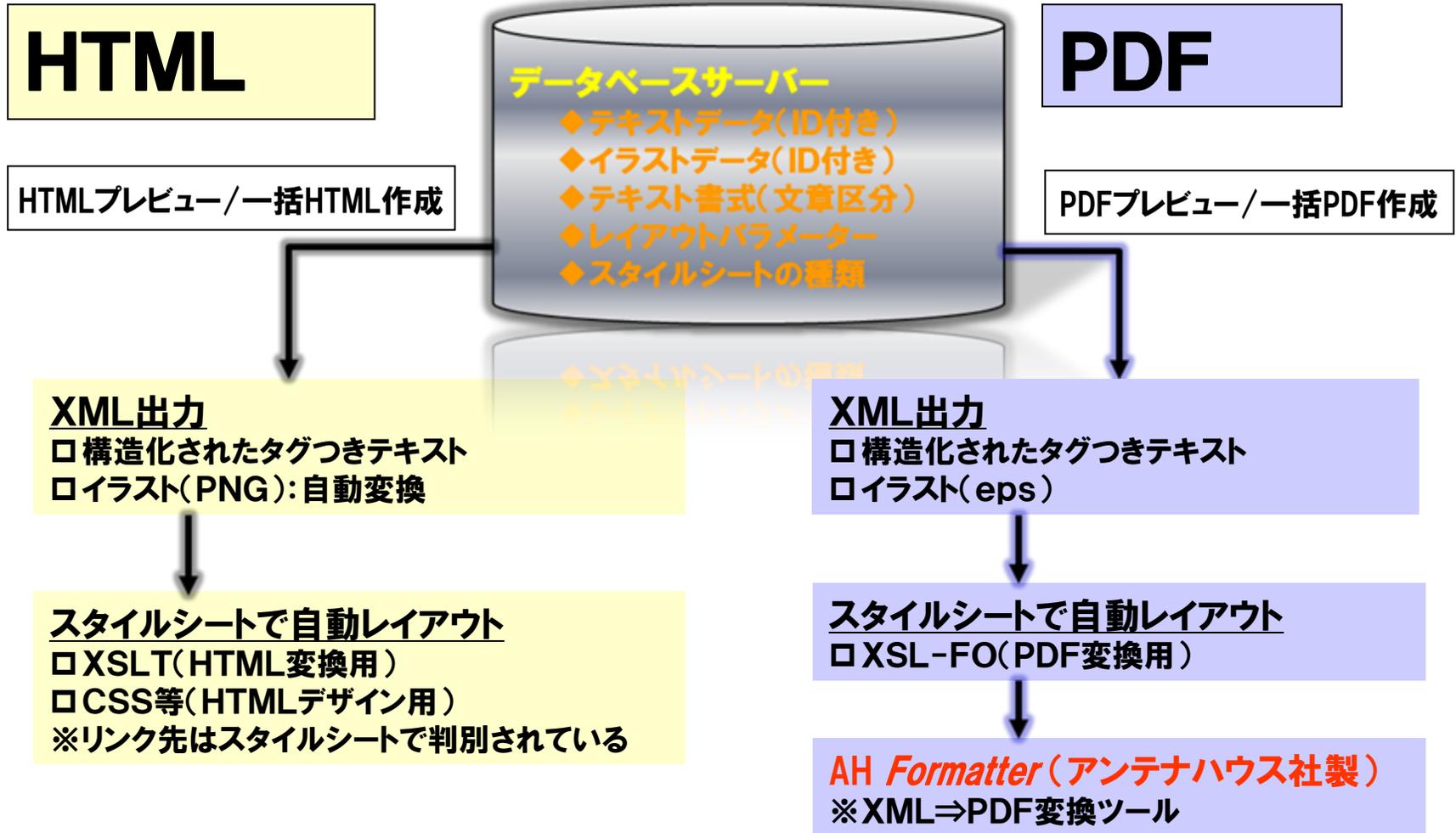
- 品質面
  - 誤字脱字、記載内容、文章表現、見やすい(読みやすい)
  - ユーザーが取扱説明書を見て商品を使えるか
- リードタイム
  - 商品設計と平行して作成(後工程)
  - 編集時間の短縮が求めれている
  - 言語が多いと大変(人数を増やす)
- 対価
  - 開発費の削減からコストは抑制または削減

⇒原価削減と付加価値が必要

開発の狙い/きっかけ

- 脱DTP
  - 編集費用の削減(特に多言語)
    - 多言語はソース言語のレイアウトにテキスト/イラストの入替え
  - 校正工数の削減(自動レイアウト効果を狙って)
- 多言語制作の合理化
  - 校正工数の削減
  - 翻訳メモリー管理の自動化
  - 制作リードタイムの削減
- HTMLとPDFマニュアルの同時制作
  - ワンソースマルチユースの必要性

- 自動レイアウト
  - AHフォーマッターは日本語対応されていたので採用（全言語対応）⇒XMLの採用
- 自由なレイアウト（自動化と相反）
  - XMLの知識がなくても原稿作成者が簡単に編集できなければ運用できない。（取扱説明書の内容を整理すれば、自然に構造化される）⇒CMSの必要性
- ワンソースマルチユース
  - XSLTとの組み合わせで多種の出力ができる（HTMLとPDF）

XML制作システム「iTrex」について：出力の流れ

どんなCMSが必要か

- 取扱説明書の紙面は流用が多い
  - 類似モデルを同時に制作することが多い
  - 取扱説明書制作には追加変更が必須(変更のリアルタイム処理)
- XMLデーターをどのように作成するか
  - XMLデーターを直接編集することは、原稿編集者のスキルで面/効率面で運用できない
  - 簡単に構造化できる編集アプリが必要。(売っていなかった)
- 編集を合理化するには、多言語編集の効率化が必要条件
  - ソース言語をTRADOSで多言語化するのでは過去と変わらない
  - メモリー管理をミスすると品質問題が発生する(DTP編集の変更が反映されない)

  ⇒多言語への変更トレーサビリティーが必要

⇒データーベース開発の必要性

どんなデータベースが必要か

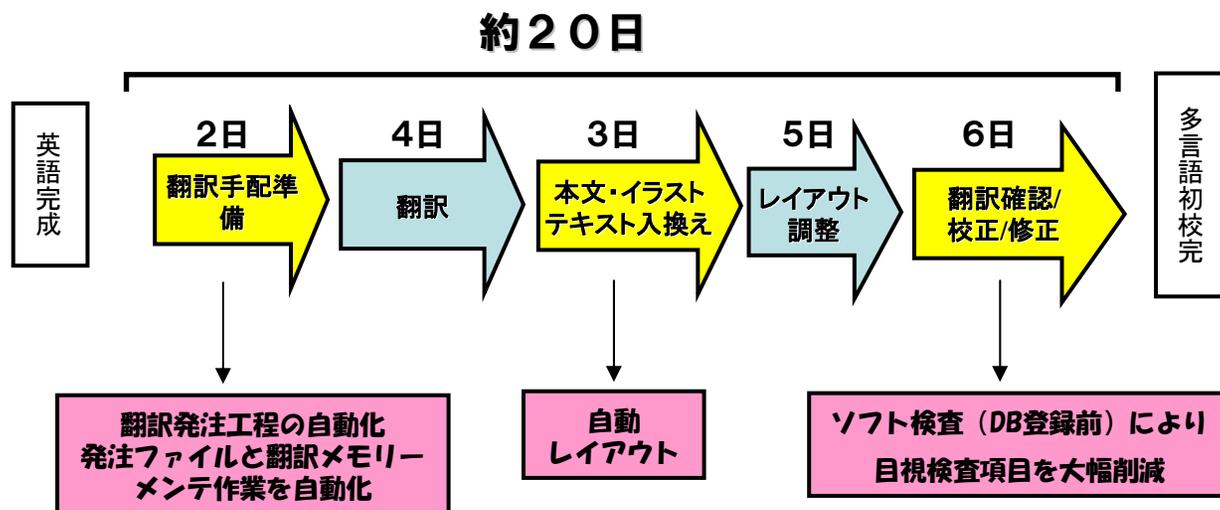
- 構造(部品)化/XMLを気にせず編集するために
  - 商品ジャンル/ブック(成果物)/目次の構造はルール化
  - 記載内容の部品化は自由度を高める
  - XMLを自動生成
  - テキスト/イラストの閲覧性と簡単に流用できる
  - 参照ページが簡単に編集できる
- 多言語編集を効率化するために(**文字量変動以外は自動で**)
  - ID番号をキーにテキスト/イラスト/レイアウトパラメータの多言語構造
  - 固有名詞(不訳文言/統一文言/GUI文言)の管理機能(検査工数削減)
  - イラストの共通言語/多言語化管理
  - TRADOSへのインターフェース機能(変更トレース)
    - テキスト変更日、翻訳発注日、納品日
    - 翻訳検査機能や翻訳メモリー自動生成機能

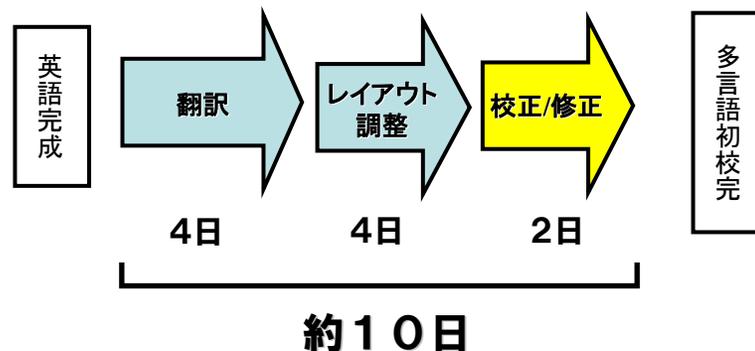
➢ 成果物のご紹介

- 紙取説
- WEB取説
- スマフォ取説

多言語制作リードタイム短縮効果（自社比較）
8000W、80pにて比較（DTPオペレーター2名）

InDesign

・後半に作業が重なる
・検査に時間がかかる

iTrex

・手作業レスで品質安定
・検査工程の短縮
・安定したリードタイム

欠点

- 部品化したことで出てきた問題点（同時修正の弊害）
  - 類似モデルを同時に制作することが多い
    - 共通部品と機種別部品の管理が必要
    - 追加変更を他のモデルに反映するかしないかの判断が必要
    - 複数モデル同時に作成できるメリットもあるが、予期しない箇所が勝手に変更されるデメリット
  - ソース言語の管理が難しい（原稿作成者のスキル向上）
    - 原稿作成者/ディレクターのスキルに依存
- 運用しだいで品質が下がるか上がるかが決まる
  - データーベースを理解して原稿執筆や編集を行う。

⇒ミスを簡単に発見できる機能を開発中

- XMLは受け渡しや変換のため手段であって目的ではない
  - 問題点や目的（効率化や作業ミス）を抽出して、具現化する（PDCAの取り組み）
- XMLは簡単にHTML化できるメリット
  - 役に立つWEBマニュアルを作成して取扱説明書の付加価値をあげる
  - 紙の取扱説明書はクイックガイド
  - WEBマニュアルはユーザーのやりたいことから操作方法へたどり着けるマニュアル作成を目指したい